

一般社団法人 日本生態学会

2023 年度 第 2 回通常理事会

1. 日時：2023 年 7 月 22 日（土）13:00～17:25
2. 場所：ビジョンセンター田町 203 室およびオンライン会議（Zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）宮下直、北島薫、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久米篤、
木村恵、村岡裕由、吉田丈人、近藤倫生、辻和希、
鏡味麻衣子、佐竹暁子、日浦勉、酒井章子、工藤岳、
小泉逸郎、鈴木牧、中野伸一、和田直也
 - ・監事：瀧本岳、大塚俊之
 - ・オブザーバー：鈴木準一郎、永光輝義、小池文人、大澤剛士、
半場祐子
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 20 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い宮下直会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、宮下直会長、瀧本岳監事、大塚俊之監事とし、議事録作成者は立田晴記専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて立田専務理事より庶務 8 件、会計 9 件の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて鈴木編集長より 2022 年 Impact factor の状況、今年上半期の編集状況について昨年より投稿が減っていること、特集の出版・進捗と今後の企画について、受賞記念論文の出版状況、大会時 ER シンポジウムの出版状況、OA 費補助申請は現時点で 0 件という状況について報告があった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料 3 に基づいて永光編集長より発行状況、編集状況の報告があった。
 - ・2021 年・2022 年と投稿数が減少していたが、2023 年は投稿が回復している。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料4に基づいて小池編集長より刊行状況、編集状況の報告があった。
- ・ 7月に出版を委託している土倉事務所担当者との相談会を実施、今後の作業フローを確認したとの報告があった。

5. 出版状況報告

- ・ 資料5に基づいて久米出版担当理事より科研費研究成果公開促進費について申請した2件が不採択であったこと、Ecological Research OA 出版補助制度を開始したが現時点で利用件数がないこと、2024年から5年間のWiley社との出版契約を締結したこと、EAFES 濟州島での英文3誌プロモーションを行ったこと、2022 Journal Impact Factor の状況、Wiley社との意見交換を行ったことについて報告があった。

6. 大会報告（ESJ70 収支・ESJ71 準備状況）

- ・ 資料6に基づいて立田専務理事よりESJ70の実績について、収支で160万円ほどの赤字であったが、過去の大会の黒字もあり大会参加費を低めに設定していたので想定内との報告があった。
- ・ 資料6に基づいて大澤大会企画委員長よりESJ71準備状況について、大会前半を完全オンライン、後半をハイブリッド形式で開催すること、公募セッション・ERシンポジウムの応募を開始したこと、委託業者を確定したこと、見逃し配信、今後のスケジュール等の報告があった。
- ・ 資料6に基づいて鏡味大会実行委員長よりESJ71予算の内訳、会場の状況、実行委員メンバー等の報告があった。

7. 各種委員会・タスクフォース（TF）報告

<キャリア支援専門委員会>

- ・ 資料7に基づいて木村理事より「中高生夏の学校」へ参加すること、学会内のダイバーシティ推進について他学会の情報収集をし、学会としての姿勢を提案できるように準備中であることが報告された。

<自然保護専門委員会>

- ・ 和田理事より自然保護専門委員による鹿児島大学演習林内の風力発電候補地視察を行ったとの報告があった。

<データベース検討TF>

- ・ 資料 7 に基づいて村岡理事より TF の位置づけ、今後は JaLTER DB を DIAS (Data Integration and Analysis System Program データ統合・解析システム)への移行を検討していること等について報告があった。

<男女共同参画学協会連絡会幹事会 TF>

- ・ 資料 7 に基づいて半場 TF 委員長より運営委員会が行われること、シンポジウムの開催、アンケートを実施することについて報告があった。

8. 生態学琵琶湖賞報告

- ・ 資料 8 に基づいて中野理事より受賞者の紹介、滋賀県庁にて滋賀県知事同席で授賞式・受賞講演が実施されたことについて報告があった。

9. EAFES 濟州島報告

- ・ 中野理事より 7/17-20 で実施されたこと、約 800 人参加で大盛況であったこと、EAFES 会長は中国生態学会長が就任し、日本の事務局長は中野理事が継続することが報告された。

10. 日本学術会議報告

- ・ 北島副会長より学術会議が 3 年に 1 回の交代時期であり、10 月 1 日から第 26 期が始まること、マスタープランは終了しボトムアップ型のグランドビジョンが出てくること、学協会との連携や他分野との連携を強めていく方向であることが報告された。

11. その他

- ・ 日浦理事より JaLTER への学会からの拠出金が昨今の物価高騰などの影響で不足しているため増額の検討依頼があった。
- ・ 宮下会長より資料 9 に基づいて生き物のつぶやきフォトコンテストへの応募呼びかけ、生物科学学会連合が奨学金支給についての要望書をまとめていることについて報告があった。

審議事項

第 1 号議案 ESJ71 大会参加費について

- ・ 資料 6 に基づいて宮下会長より説明があり、対面開催を行った ESJ66 (神戸) の参加者を参考に、一般事前 13,000 円・直前～当日 15,000

円、学生事前 6,000 円・事前～当日 7,000 円の参加費とし、オンラインのみ参加者と現地参加者を同額することが全会一致で承認された。

第 2 号議案 ESJ72（札幌）に向けてのアンケート実施について

- ・ 小泉理事より ESJ72 の開催形式を考える上で会員へのアンケート実施の提案があったが、早めに ESJ72 タスクフォースを立ち上げて、アンケート実施の有無・対象・内容など検討することになった。
- ・ タスクフォースメンバーは後日メール審議することになった。

第 3 号議案 総合地球環境学研究所へのサポートレターについて

- ・ 資料 10 と参考資料に基づいて宮下会長より説明があり、総合地球学研究所「ミューザゴラの創設に基づく地球未来学の振興」を支援しサポートレターを提出することが全会一致で承認された。

第 4 号議案 英文 3 誌の方針について

- ・ 資料 5 に基づいて久米理事より説明があり、英文 3 誌の科研費申請について、PSB を対象にしたオープンアクセス刊行支援は応募し、ER を対象とした国際情報発信強化 (B) は編集部で判断して申請することが全会一致で承認された。
- ・ PSB の OA 化、生態学会大会での海外研究者を招聘した 3 誌それぞれのシンポの実施、3 誌の OA 出版補助については継続して検討することになった。

第 5 号議案 委員の承認について

- ・ 資料 2 に基づいて鈴木 ER 編集長より新規編集委員追加の提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料 8 に基づいて中野理事より琵琶湖賞運営委員の提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料 11 に基づいて宮下会長より選挙管理委員の提案と委員長として徳地直子氏を推薦する提案があり、全会一致で承認された。

第 6 号議案 ER 投稿規定改訂について

- ・ 資料 2 に基づいて鈴木 ER 編集長より投稿規定改訂の提案があり、全会一致で承認された。

第 7 号議案 保全生態学研究投稿規定改訂について

- ・ 資料4に基づいて小池保全誌編集委員長より投稿規定改訂の提案があり、全会一致で承認された。

第8号議案 キャリア支援委員会内規改訂について

- ・ 資料7に基づいて木村理事より委員会内規改訂の提案があり、対外的文書について一部記載を修正することが全会一致で承認された。

第9号議案 学会推薦取り決め改訂について

- ・ 資料12に基づいて宮下会長より研究助成団体への学会推薦に関する取り決め改訂の提案があり、全会一致で承認された。

第10号議案 次回EAFES開催地について

- ・ 宮下会長より2025年のEAFESが日本開催の順番であり、開催地を東京とする提案があり、全会一致で承認された。

その他

- ・ 宮下会長より外部への学会推薦手続きについて事務局で不備が生じた案件の報告、立田専務理事より今後の改善策について報告があった。
- ・ 宮下会長より、2015年に公表した日本生態学会活動方針(アジェンダ)を見直し、次回理事会で修正案を提案、2024年3月総会で承認を得る予定との説明があった。

閉会：以上の議事を終え、17時25分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2023年7月22日

会長：宮下直 ㊟

監事：瀧本岳 ㊟

大塚俊之 ㊟